

令和7年度第2回 鳴門市児童福祉審議会 議事録

日 時 令和7年11月25日(火) 午後2時～

場 所 消防庁舎 3階会議室

出席者 委員14名、関係課・事務局職員13名

欠席者 委員3名

傍聴者 1名

概 要

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

(1) 鳴門市こども計画策定に係るアンケート調査の結果について

(2) 鳴門市こども計画(素案)について

資料1「鳴門市こども・若者の意識と生活に関する調査報告書(小・中学生)」

資料2「鳴門市こども・若者の意識と生活に関する調査報告書(15～29 歳)」

資料3「鳴門市子育て支援に関わる事業所調査報告書」

資料4「鳴門市こども計画(素案)」を事務局より説明。

(A 委員)

15～29 歳調査の回答率が 29.8%ということだが、数値的にはそれでよかったのか。本当に欲しかった意見が吸い上がっているのか。

また、今回のアンケートは割合を出すことが目的なのか。これらの割合が高いのか低いのかは何と比較すればいいのか。例えば、この回答で「はい」と答えた人が他の設問ではどのように回答しているかといった分析や検定を行い、今後に活かしていくようなことはしないのか。

(事務局)

15～29 歳の 29.8%は高い割合と考えている。その理由として、高校生は学校で直接配布したことが回答率の割合を上げた要因になっていると考えている。しかし、郵便で送っている 18～29 歳の方については、有効回答数はここよりも下がっていると思う。

アンケートの比較については、今回は国との比較ができるように、国が以前実施している調査の設問に寄せている。ただ、結果を見ると全国と鳴門市に大きな違いはないように感じた。

また、アンケートの割合について、次期のこども計画策定時にも同様のアンケートを取るようになると思う。そのため、今回のアンケート結果の割合をもとにした評価指標を設定し、この4年間でそれらの割合が少しでも良くなるように、市の方でも支援していきたいと考えている。

(A 委員)

不登校やひきこもりがちな方は、特に支援を必要としているイメージがあるが、29.8%の中にそのような方の回答が拾い上げられているかどうか疑問に感じた。また、国や県と比較しているが、

母数が多くなればなるほど確からしい数字になると思う。単純に割合だけで比較していいのか疑問に感じた。

(会長)

確認として、小・中学生はタブレットで回答したのか。

(事務局)

小・中学生は1人1台持っているタブレットで回答してもらうよう、学校の先生にお願いして実施している。

(会長)

一般的には29.8%の割合は高い方ではあるが、本当に支援が必要な方や不登校の方などの回答が得られているかどうかということを踏まえて、この結果を見ていかなければいけないと思う。

(B 委員)

いくつか質問がある。

1点目は、P.27の評価指標1つ目の「自分のことが好き」と回答した割合を指標とすることについて、この割合が高くなることで鳴門市のこどもがより暮らしやすくなっているのかという点は疑問がある。他にも指標になりそうな項目がある中で、全国よりもすでに高い割合をさらに上げることは苦しくならないのか心配である。

2点目は、評価指標5つ目の「鳴門市における子育ての環境や支援への満足度」について、目標値を就学前児童の保護者は45%、小学生児童の保護者は25%としている。実績値から考えると妥当な割合かもしれないが、目標として25%は低すぎるように思う。鳴門市は、就学前児童には力を入れて小学生児童には力を入れていないような印象を与えてしまうため、小学生児童保護者の目標値を考え直していただきたいと思う。

3点目は、P.29の「こども・若者の意見表明・反映に向けた取り組み」について、今回の計画策定の過程で行っていただく自由記述や意見聴取の結果を反映することも主な取り組みの1つになると思う。こどもの意見表明や社会参加の機会の提供、施策への反映という形でまとめたらいと思う。

また、アンケートや自由記述をみると、こどもたちは意外と大人に期待していて、助けてもらいたいと思っていることがわかる。こどもや若者の意見が表明されたときに、教育や保育の現場の大人や、家庭の大人がどのように受け止めるかの啓発が必要ではないかと思う。こどもが意見を言えるようにするとともに、その意見反映に向けた大人側の取り組みが記載されれば、実現されていくような印象を受けた。

4点目は、P.31の「いじめ防止、不登校・ひきこもり支援に向けた取り組み」について、小・中学生のアンケート問19では、困ったときや悩んだときの相談先として「学校の先生」が3番手になっている。その一方で、施策一覧の「いじめ防止、不登校・ひきこもり支援に向けた取り組み」の施策をみると、スクールカウンセラー、うず潮教室、フリースクールなど特別な機関で支援するよう

な枠組みになっているのが気になった。

児童、生徒は学校の先生も頼りにしていることから、学校の先生も講習や研修を受けられる機会を保障し、いじめ、不登校のこどもへの対応の資質向上みたいなことが含まれるようになれば良いものになると思う。

5点目は、アンケート報告書の形式的な部分について、クロス集計のグラフで鳴門市、国、性別の順となっているが、この順番では性別は国の男女なのか、鳴門市の男女なのか誤解を生む可能性がある。間隔を開けたり、鳴門市で括ったりして、鳴門市と国の比較をわかりやすくした方がよいと思う。

6点目は、アンケートでは、インターネットを居場所と感じたり、そこで出会った人に悩みを相談したりしている割合が高く、信用しすぎているようにも思える。教育の中で、仮想的な場で出会う人の危険性を伝える必要があると思う。

最後に、アンケート調査結果の中で興味深かった点として、今の自分は役に立たないと感じていても、社会のために役立つことがしたいと考えている傾向がみられる。何か役に立てていると思えるような機会やチャンスがあれば、こどもたちはさらに社会や地域とつながることができるのではないかと思う。

(事務局)

1点目の、評価指標にある「自分のことが好き」について、自己肯定感が高いこども・若者が多いと幸せなまちになっていると感じたことから入れている。

評価指標の考え方として、例えば全国よりも悪い数値を持ってきて、そこをより良くすることを考えた評価指標にした方がよいのかどうか、事務局としては悩みどころであり、ぜひご意見があればいただきたいと思う。

(B 委員)

悪いものを持つてくる必要はないと思う。市の方で自己肯定感が高まればよいと考えるのであれば、このままでもいいと思う。

(会長)

モデルカリキュラムでは、「自分が好き、人が好き、このまちが好き」を掲げているので、「自分のことが好き」というのは残してほしいと思う。この高い水準を維持して、鳴門市は自己肯定感が高いまちとして誇れるようになることを目指していけたらいいのではないかと思う。

(事務局)

2点目の評価指標5つ目については、小学生児童保護者の目標値を上げたいと思う。

3点目のP.29の「こども・若者の意見表明の取り組み」については、うずっ子条例で、こどもの意見を聞いて反映することを大人の努めとして明記していたと思う。再度、うずっ子条例を確認したうえで、こども計画でも大人の役割をはっきり明記し、市として取り組んでいくことがわかるような文章を入れたいと思う。

4点目のP.31の「いじめ防止、不登校・ひきこもり支援に向けた取り組み」について、いじめ・

不登校への対応はすべての先生に必須のスキルになっているのが現状である。

いじめについては、学校ではいじめ防止対策推進法に基づいた対応をしており、不登校については、鳴門市の協議会やうず潮教室を含めて対応している。施策としてまとまってはいないものの、学校現場でもしていることがある。また、市だけでなく県全体で教員の研修なども個別に受けられる状態になっていると思う。施策として盛り込めるものがあれば考えたいと思う。

5点目のグラフの修正はそのように対応したいと思う。

6点目のインターネットに関しては、現場でたくさん問題が起こっている。小・中学生、特に年齢が上がった中学生の方ではより厳しくいろいろな形で指導している状況であり、ご理解いただきたいと思う。

(会長)

5点目のグラフについては、色やパターンを工夫してもう少し見やすくしていただきたいと思う。

(C 委員)

計画素案の P26、P27 に記載のある、基本目標と評価指標の相関関係が薄いと思う。この評価指標では、何が課題でどこがダメだったのか評価しようがないと思う。基本目標に打ち返すような評価指標になっていないとやる意味がないと感じる。

(事務局)

評価指標については、県や他の自治体を参考に項目を検討している。

個々の具体的な施策の実績値を評価指標にしているところもあったが、例えば、不登校の相談件数を増やすことを4年後の目標にした時に、相談件数の増加は、相談できる体制が充実しているというプラスの側面と、不登校の児童生徒が増えているというマイナスの側面で見ることができてしまうため難しい。

そのような考えから、今回の評価指標はアンケートから取ることが1番いいと考えている。

(C 委員)

細かくてもやるべきだとは思う。評価できるようにしておかないと、その施策があっていたのか、間違っていたのか、もっと違う施策が必要だったのかわからないと思う。

(D 委員)

こども計画は、こどもの意見を聞いて、「こどもまんなか」として打ち出していくことが今までの作り方と違うところだと思う。今回の基本理念は第3期子ども・子育て支援事業計画を継承することだが、「子育てを始める」という表現では、こどもが客体になっている気がしており、こどもが育つという視点も盛り込めないかと思う。

また、基本目標3「困難な環境にあるこども・若者への支援」について、評価指標がないのと施策も少ないように感じた。他のところでは母子保健とかショートステイなどの制度も入れているため、その点は検討していただきたいと思う。

(会長)

評価指標の「自分が好き」と思う割合や条例の認知度、子育て支援の満足度といったものはウェ

ルビーイング的な評価であり、具体的に実行している取り組みへの評価、実態の分析はこの会議でこれからも行っていくものだと認識している。色々な取り組みをした上で、結果的に、この評価指標につながっていくということで理解しているが、それで問題はないか。

(事務局)

その通りである。市が取り組む施策が最終的にはウェルビーイングなところで、自分のことが好きと思う割合や条例を知っている割合、意見表明をしたいと思う割合などを高くしていくことにつながっていきたいと考えている。

なお、今回からは具体的な施策を本編ではなく別冊として整理している。

その背景には、国からも新しく色々な支援がでてきて、市の方でもそれに合わせて新しい支援ができたり、変わったりすることがこの4年間の中でも予想される。その変化に対応できるよう、新しい施策が出てきたら、それを児童福祉審議会の中で報告し、別冊の内容を改定して反映できるようにしていきたいと考えている。

(会長)

今回の調査については、先ほどA委員もおっしゃったようにパーセンテージだけで見るのは無理が出てくると思う。この大規模な調査結果を生かす方法としては、重回帰分析やクロス集計などで、どの要因がウェルビーイングや自己肯定感につながっているかなどの分析を行うことができると思う。その中で、どこに重点的に力を入れたらいいのか、プロジェクトチームの立ち上げや市がDXを活用し検討することで、解決するのではないかと思う。

(事務局)

今後の修正点として、1つ目は評価指標の「自分が好き」という項目について、割合の数値を出すのではなく、維持していく形の言葉に変更すること。

2つ目は評価指標の「鳴門市における子育て環境や支援の満足度」の項目について、小学生保護者の割合を就学前保護者と近い数値に寄せていくこと。

3つ目は基本目標1(2)の「こども・若者の意見表明・反映に向けた取り組み」について、大人の方の立場や役割を明記した文章を入れること。

この3点を修正していきたいと思うが、その他にはないか。

(B委員)

D委員がおっしゃった基本理念の変更について、たしかに「子ども・子育て支援事業計画」の中ではこの基本理念でよかったが、こども計画にするのであれば、例えば「自然とふれあい 笑顔がうずまく こども・子育てのまち なんと」のように、こどもが主になる何かを入れた方がいいと思う。

(事務局)

事務局において修正を行った計画素案の確認については、会長に一任する形でお願いしたいと思うが問題はないか。

(各委員)

異議なし。

(会長)

会長一任ということで、ご了承いただきたいと思う。

それでは、今回の審議をもって素案の決定とする。

4 パブリックコメントの実施手続きについて

会議資料 P.1「パブリックコメントの実施手続きについて」を説明。

(各委員)

異議なし。

5 その他

連絡事項なし

6 閉会